

芝山町岩山金塚遺跡

—(仮称)アグリパーク建設予定地内埋蔵文化財調査報告書—



平成18年3月

成田国際空港株式会社
財団法人 千葉県教育振興財團

序 文

財団法人千葉県教育振興財団（財団法人千葉県文化財センターから平成17年9月1日付で名称変更）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県文化財センター調査報告書第531集として、成田国際空港株式会社のアグリパーク建設予定地内の埋蔵文化財調査として実施した。成田市岩山金塚遺跡の発掘調査（確認調査）報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代から奈良平安時代にかけての住居跡などが確認され、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際しまして、御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理までご苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成18年3月

財団法人 千葉県教育振興財団

理事長 佐藤 健太郎

凡　例

- 1 本書は、成田国際空港株式会社による地域農業振興関連施設である、(仮称)アグリパーク建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県山武郡芝山町岩山地先に所在する岩山金塚遺跡（遺跡コード409-042）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、成田国際空港株式会社の委託を受け、財団法人千葉県文化財センター（平成17年9月1日付で財団法人千葉県教育振興財團と名称変更）が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、本文中に記載した。
- 5 本書の執筆・編集は池田人助が担当した。
- 6 発掘調査から報告書刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、成田国際空港株式会社、成田市教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地図は以下の通りである。
第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「成田」(NI-54-19-10)
- 8 周辺航空写真は、京葉測量株式会社平成13年度撮影によるものを使用した。
- 9 基準点測量及び地形図は日本測地系に基づき行われたものである。
- 10 本書で使用した方位はすべて、座標北である。
- 11 採図に使用したスクリントーン・記号例は図版中に記載してある。

本文目次

第1章 はじめに.....	1	第1図 岩山金塚遺跡位置図.....	2
第1節 調査の概要.....	1	第2図 遺跡周辺地形図.....	2
1 調査の経緯と経過.....	1	第3図 上層確認調査範囲図及び遺構検出状況図	3
2 調査の方法.....	1		
第2節 遺跡の位置と環境.....	4	第4図 SI-001号住居跡実測図	5
第2章 岩山金塚遺跡.....	4	第5図 SI-003号・SI-001号住居跡出土遺物	
第1節 遺跡の概要.....	4	実測図.....	5
1 検出された遺構及び遺構に伴なう遺物	4	第6図 包含層出土土器.....	6
2 検出された包含層に伴なう遺物	6		
縄文時代土器.....	6		
第3章 まとめ.....	7		
報告書抄録.....	巻末	図版1 岩山金塚遺跡航空写真	

写真図版

図版2 遺跡遠景東より 他
図版3 5C区第1トレント1号住居跡試掘状況 他
図版4 包含層出土土器・SI-001号住居跡出土遺物

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

財團法人千葉県教育振興財團では、成田国際空港予定地内及び関連事業地内に所在する遺跡について、千葉県教育委員会の指導のもと、成田国際空港株式会社の委託により、昭和51年度から計画的・継続的に発掘調査を実施してきている。また、これらの発掘調査成果の一部は既に多数の報告書として刊行されているところである。

今回報告する岩山金塚遺跡は空港駆除地区内における農業振興策の一環として（仮称）アグリパークの建設が計画され、千葉県教育委員会と成田国際空港株式会社との間で取扱いについて協議した結果、造成地内に所在する駐車場エリア上層の確認調査を実施することとなり対象面積9,239m²の発掘調査を実施する運びとなった（第1図～第3図）。

なお、周辺及び近接地には縄文時代早期から奈良・平安時代に至るまでの遺跡が所在し、その中のいくつかについては、当千葉県教育振興財團を始め、山武郡市文化財センターにおいても発掘調査が実施されているところもあり報告書も刊行されている。

岩山金塚遺跡の発掘調査と整理作業の期間及び調査体制は以下のとおりである。

平成17年度

期間 平成17年7月1日～平成17年7月11日

組織 東部調査事務所長 鈴木 定明

担当職員 副所長 池田 大助

内容 発掘作業（岩山金塚遺跡）

上層 924m²/9,239m²（確認調査）

平成17年7月12日～平成17年7月29日（整理）

組織 東部調査事務所長 鈴木 定明

担当職員 副所長 池田 大助

内容 整理作業水洗・注記～報告書刊行（岩山金塚遺跡）

2 調査の方法

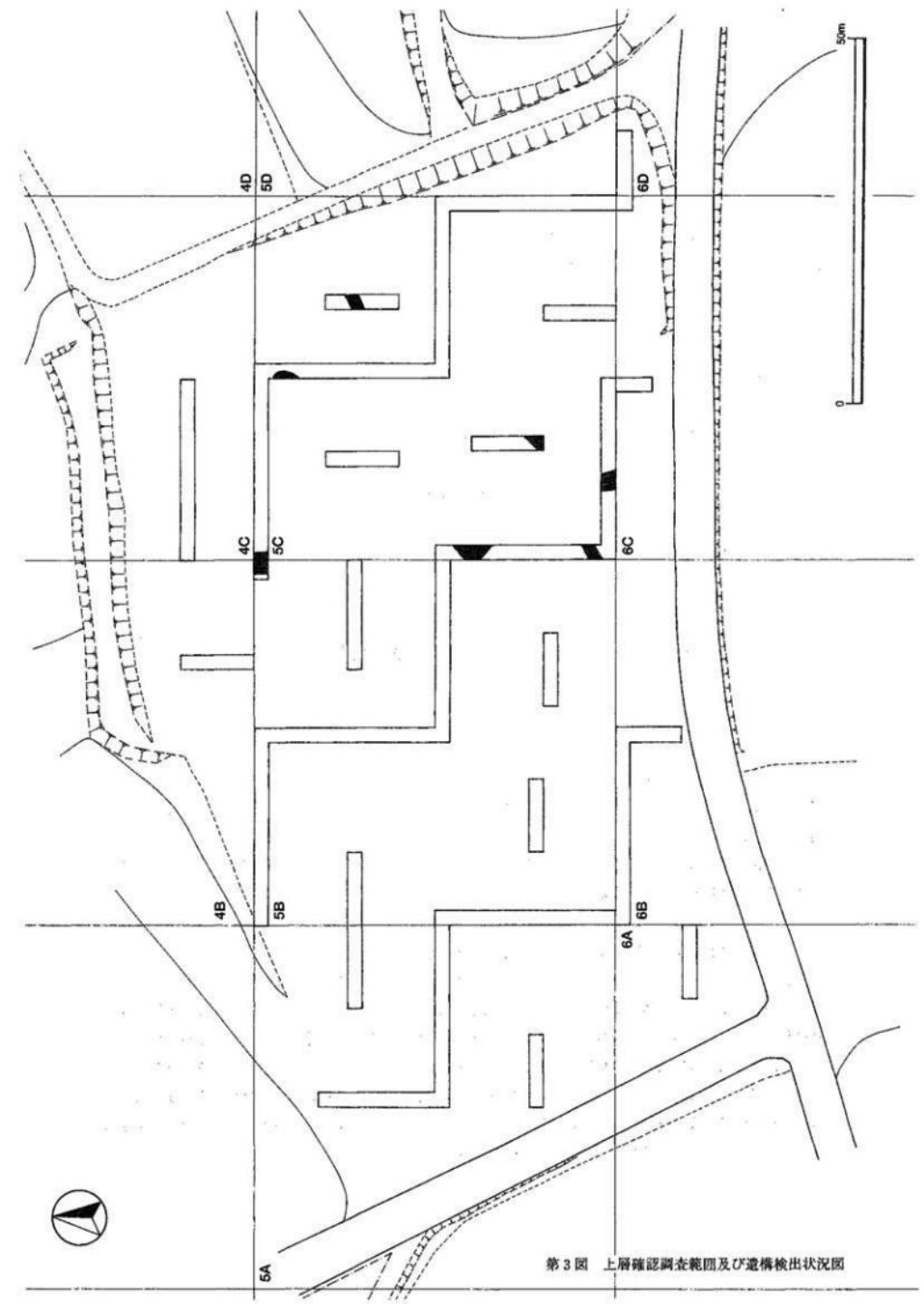
岩山金塚遺跡の全域に、公共座標に合わせて通常のグリッドの設定を行い、東西南北に50m×50mの方眼網を設定し、大グリッドとした。大グリッドの呼称法は、北西に基点を置いて、北から南に1，2，3……とし、西から東へA，B，Cとして、これを組み合わせて使用した。大グリッド内は5m×5mに100分割した小グリッドを設定し、北西隅を起点に00, 01, 02……として南東隅を99とした。調査は上層確認調査を調査対象面積9,239m²について10パーセントを行い、下層については、今回は仮設駐車場エリアと言うことであるので対象外とし、上層のみの確認調査を行った。

第1図 岩山金城道路位置図



第2図 道路周辺地形図





第3図 上層確認調査範囲及び遺構検出状況図

第2節 遺跡の位置と環境

今回調査を行った岩山金塚遺跡は山武郡芝山町岩山地先に所在する。

芝山町は下総台地の東部に位置し、南は富里市、西に成田市、東は多古町、北は大栄町に接している。

本遺跡周辺台地は標高約41mを計り、成田空港付近を分水嶺とし、南行する栗山川水系の高谷川や木戸川の水源となり、両河川は北西から南東に向かって流れ、九十九里海岸平野を経て太平洋に注ぐ。またこの分水嶺を北行するならば、利根川、香取の海へと流れる栗山川水系の根本名川など多くの支谷上に展開する遺跡が見て取れる。

現成田国際空港の広大な用地内には旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡群を望み、それらについてはすでに当財団より刊行された数多くの報告書において内容の知られているところである。

本遺跡東側に沿って走る通称はにわ道沿いには、上宿遺跡、古宿遺跡、沖ノ台Ⅰ遺跡、沖ノ台Ⅱ遺跡がある。

上宿遺跡は縄文時代の陥穴や土坑が検出されており、古宿遺跡は縄文時代後期及び奈良・平安時代の遺跡である。また、沖ノ台Ⅰ遺跡は縄文時代早期及び中期の遺物と古墳時代の鍛冶工房跡、竪穴住居跡・土坑が検出されている。沖ノ台Ⅱ遺跡は縄文時代中期の遺物と古墳時代の粘土採掘坑・炭窯・土坑・排溝場が検出された。このことから沖ノ台Ⅰ遺跡と沖ノ台Ⅱ遺跡は相互に関連する遺跡であり、東日本の古墳時代の製鉄技術を考える上で貴重な資料を提供する遺跡であることが判明している。

第2章 岩山金塚遺跡

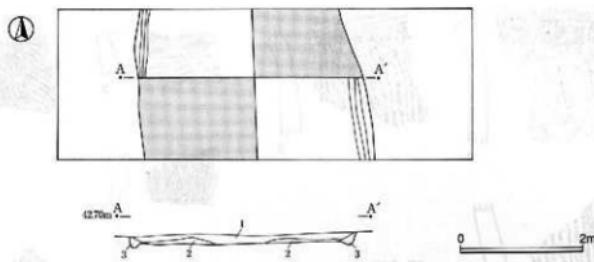
第1節 遺跡の概要

調査は上層確認調査を調査対象面積9,239m²全城の10%について行い精査した。確認された遺構としては、縄文時代陥穴2基、古墳時代住居跡1軒、奈良・平安時代住居跡2軒、時期不明の溝状遺構2条、柱列1条が検出された。

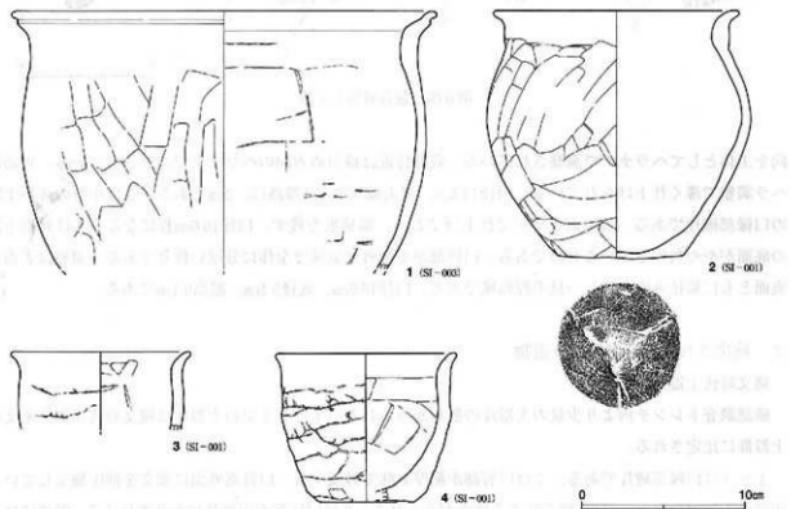
ただ深耕により包含層が確認できない状態となっており、わずかに遺存する包含層からは縄文時代早期撫糸文系の土器片が出土している。下層確認本調査については行わなかった。

1 検出された遺構及び遺構に伴う遺物（第5図1～4）

住居跡は検出されたものが3軒でそのうちSI-001号住居跡のみトレンチで検出された2/4の精査を行い下記の2～4までの遺物が検出されている。一辺3m50～60cm程度の規模の住居跡で壁周溝が巡るものと思われる。柱穴は精査された範囲では認められない。またカマドなどの施設も認められなかった。覆土は1層、黒褐色土（黒色土が斑状に入り込む。ソフトローム粒もみられる。）、2層、暗褐色土（粘質がありスコリアを少量含む。）、3層、褐色土（ソフトロームが崩落した土層）と3枚に分かれる。確認面からは20cmくらいである。遺物等から判断すると奈良時代に該当する住居跡と考えられる。その他の遺構等については確認面での判断であるため詳細は不明である。



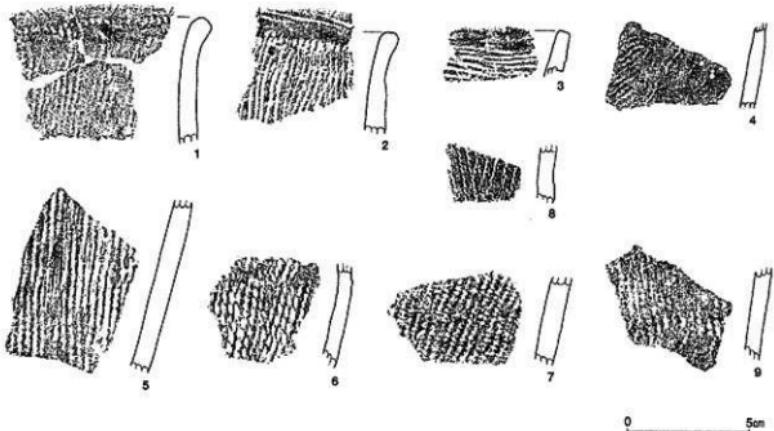
第4図 SI-001号住居跡実測図



第5図 SI-003号・SI-001号住居跡出土遺物実測図

1は5C区の9トレンチから検出されたものである。おそらくSI-003号住居に伴う遺物と考えられる。古墳時代後期頃のものである。壺の口縁部～胴部下半にかけてのものである。頸部から口唇部は大きく外反し胴部中程が膨らむ器形となる。外面胴部付近には縦方向が主体のヘラナデによる調整がみられる。内面は横方向のヘラ調整後ナデ仕上げが見られる。一部輪積み痕が残されている。口径25.3cm、最大幅は口縁部と同じで器高は底部がないため不明である。

2～4はSI-001号住居跡に伴う遺物である。2は小形の壺の完形品である。口唇部は大きく外反し胴部のほぼ中央部に最大幅のくる器形である。口唇部付近はナデで調整されている。頸部～底部上半は縦方



第6図 包含層出土土器

向を主体としてヘラナデで調整されている。底部付近は横斜め方向のヘラナデで調整されている。底面はヘラ調整で薄く仕上げられている。口径14.4cm、最大幅16.1cm、器高15.2cmである。3は小形の鉢形土器の口縁部破片である。器表面をナデで仕上げており、輪積痕を残す。口径10.6cm程になる。4は鉢形土器の底面がやや欠損しているものである。口唇部がやや外反氣味で全体に分厚い作りである。調整は表面・裏面ともに輪積み痕を残し一見手捏ね風である。口径10.6cm、底径5.4cm、器高9.1cmである。

2 検出された包含層に伴う遺物

縄文時代土器

確認調査トレンチ内より少量の土器片の散布がみられる。1～9までの土器片は縄文時代早期撚糸系土器群に比定される。

1～3は口縁部破片である。1は口唇部が肥厚気味で外反する。口唇部外面に縄文を押圧施文している。頸部から胴部に向かってRL縄文による施文がみられる。2は口唇部が円頭状になり外反する。頸部には縱方向とやや斜方向に重ねる様にRL縄文による施文がみられる。3は口縁部の小破片である。口唇部は角頭状になる。LR縄文が施文されている。4～9は胴部破片である。4は胴部に横方向のRL縄文が施文されている。5は縱方向にLRで撚糸文が施文されている。6は縱方向にRL縄文が施文されている。7はRL縄文が縱方向に施文されている。8はLで縱方向に撚糸文が施文されている。9は縱方向にLR縄文が施文されている。

第3章　まとめ

今回岩山金塚遺跡は上層確認調査を行ったのみであるため、遺跡の全体像は遺跡の本調査が行われた後、改めて行われるであろうことから、ここでは確認調査で知り得た成果のみまとめるとしてする。

縄文時代の遺構と思われるものは竪穴と思われるものが2基検出されている。また遺物はトレンチ内の一括遺物で撚糸文系土器が少量ではあるが検出されている。縄文時代早期のこの時期に狩猟採集の場として機能していたのかもしれない。

古墳時代～奈良・平安時代にかけて住居跡が3軒検出されている。この時期の集落の存在が想起されるものの確認調査のみであるため詳細は不明である。

写 真 図 版



岩山金塚遺跡航空写真 (S=1/12,500) H16年1月撮影 白ヌキ今回報告部分



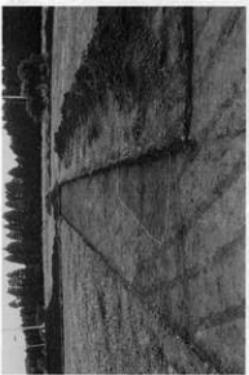
道路近景
東側より



道路近景 (1)
東側より



道路近景 (2)
西側より



5CI区第3 トレンチ
SI - 002号住居確認状況



5CI区第10 トレンチ



5CI区第6 トレンチ



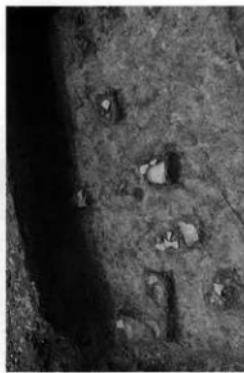
SC1区第1トレンチ
遺構確認状況 (南より)



(西より)



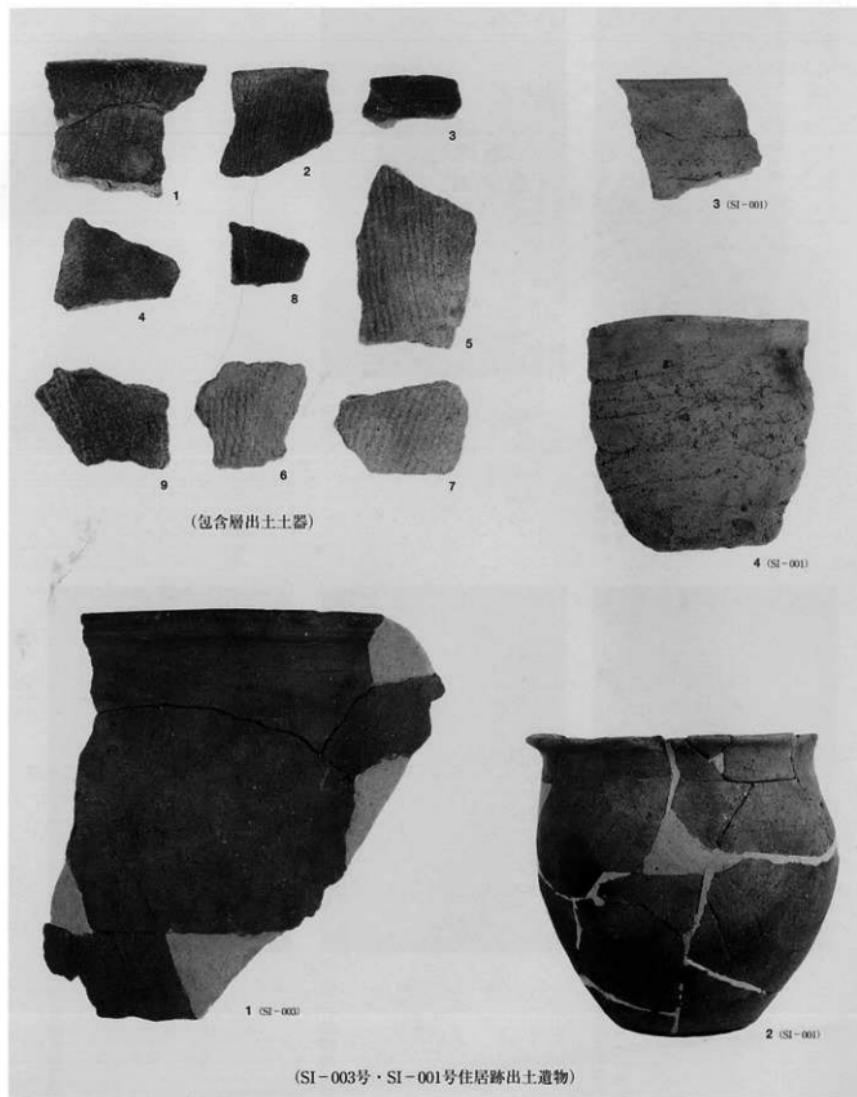
SC1区第1トレンチ
SI-001号住居試掘状況



SI-001号住居遺物出土状況



SI-001号住居試掘全景



報告書抄録

ふりがな	あぐりばーくけんせつよていいちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ						
書名	アグリパーク建設予定地内埋蔵文化財調査報告書						
副題名	芝山町岩山金塚遺跡						
巻次	1						
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告						
シリーズ番号	第531集						
編著者名	池田大助						
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団						
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地2 TEL043-422-8811						
発行年月日	西暦2006年3月24日						
所取遺跡名	所 在 地	コ ー ド	北 緯	東 緯	調査期間	調査面積	調査原因
岩山金塚遺跡	千葉県山武郡 芝山町岩山地先	409 042	35度 42分 50秒	140度 23分 00秒	20050701～ 20050711	9.239m ²	アグリパークの建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
岩山金塚遺跡	繩文	繩文時代陥し穴	2基	繩文時代早期 土器片	古墳時代～奈良・平安時代に至る集落の可能性がある。		
	古墳～平安	古墳時代住居跡	1軒、 平安時代住居跡 2軒	土器片			

千葉県教育振興財团調査報告第531集

芝山町岩山金塚遺跡

—(仮称)アグリパーク建設予定地内埋蔵文化財調査報告書—

平成18年3月24日発行

編 集 財團法人 千葉県教育振興財團

発 行 成田国際空港株式会社
成田市木の根字神谷24

財團法人 千葉県教育振興財團
四街道市施渡809番地2

印 刷 株式会社 正 文 社
千葉市中央区都町1-10-6